

秋田県立横手高等学校（全日制課程）中期ビジョン（五カ年計画）

本校が目指す5年後の姿（具体的な目標）

① 学校の現状や課題

本校は明治31年（1898年）に創立され、今年で百十三周年を迎える伝統校であり、長い歴史を通して多くの人材を輩出してきた。生徒のほとんどは大学進学を希望しており、平成22年度の卒業生の進路実績（実人数）は東大2、京大1、東工大1、一橋大1、東北大19、北大4、医学部医学科6（うち国公立大5）など、国公立大学は179名（進学実人数）、私立大は57名（進学実人数）である。

中学校卒業生の減少に伴い、平成23年度入学生から入学定員は235名（1学級減）となったが、文武両道を実践する地域の中心的進学校としての立場は不変であり、今後も将来の人材を育成する学校として地域の期待に応えていくために一層の努力が必要である。

② 学校を取り巻く将来の状況の予測

高校入試の学区が全県一区になったり、地域の高校がそれぞれ生徒、保護者にとって魅力的な学校づくりに取り組んでいる中で、優秀な生徒が志願する学校となるために、一層の特色化と安定した実績が必要である。また、近年高校入試における上位者層が薄くなってきていることも懸念される。大学受験に関しては、当地域は都会と比べ、進学重視の私立の中高一貫校や大きな進学塾もなく、刺激が少ない傾向にあるが、学力上位層の計画的な育成のために、小中高の連携した指導が必要である。

③ 目指す方向性や学校像

本校が目指す方向性は、教育方針に掲げてあるとおり、「剛健質朴」の校風の下、「青雲の志」を抱き、将来の社会の幸福に貢献する「知・徳・体」のバランスのとれた人材の育成に努めることである。その具現化のために、「進路実現」と「人材育成」を重点目標とし、生徒の進路希望の実現を支援すると共に、全ての教育活動を通して人格の完成と人材育成を図ることが本校の使命である。

④ 5年間で達成を目指す具体的目標

- ・現役での大学等合格・進学率90%以上
- ・現役での国公立大学合格・進学率70%以上
- ・国公立難関大学、医学部合格30名以上
- ・部活動での全国大会、コンクール等出場3部以上
- ・部活動加入率80%以上
- ・早朝8時からの自主学習達成率100%
- ・自己啓発のための各種体験活動の参加者を平成22年度実績対比25%増

具体的な取り組み等

① 授業を通しての学力向上 — 興味を引き出す授業、学力をつける授業

- ・公開授業研究会や生徒の授業評価を生かした授業改善と指導力の向上
- ・55分授業の一層の充実と進路志望別・習熟度別授業の展開
- ・土曜活用・長期休業中の補習授業および講座の充実

② 十分な生徒理解と進路実現の指導 — 一人一人を大切に伸ばす進路指導

- ・職員一人一人の面談技術の向上と、生徒の成長を促す面談の実施
- ・将来を担う生徒の人生決定を支援するという使命感と力量のある職員による指導

③ 地域が評価する態度と整容 — 端正で爽やかな服装と挨拶 社会ルールの遵守

- ・社会のルールを守れる高い規範意識のある生徒の育成
- ・地域の中心校の生徒として、市民から評価され、信頼される生徒の育成
- ・学校が組織体としての機能を持ち、一体感を持った指導の実践

④ 部活動の活性化と部活動を通じた人間形成 — 勝つ喜びと人間教育

- ・全県・全国レベルで活躍する生徒の育成
- ・努力が報われ、勝利する喜びを体感させる指導
- ・部活動を通して、人間教育を実践
- ・部活動を通して、豊かで楽しい学校生活の実現

⑤ 自己啓発の積極的態度の育成 — 青雲の志と目標達成へ向けた努力

- ・早朝や放課後の自主的な学習の奨励
- ・図書館・美入野記念館の早朝（7：00～）・放課後（～19：00）の開放
- ・複合的な課題に挑戦できる状況設定と問題解決能力の育成
 - 東北大学（院）や国際教養大学を訪問しての“あをくも講座”の実施※注
 - 海外や国内の大学での研修を取り入れた修学旅行の実施
 - 国や県が実施する国際交流事業への生徒派遣
 - 科学コンテスト参加の奨励と対策講座の開設

※注 あをくも講座……大学や大学院で最先端の研究に触れ、体験的な活動をとおして、学問的な視野を広げ、「青雲の志」を育む本校独自の事業

⑥ 社会貢献の意識の育成 — 体験活動を通じた進路意識と社会性の育成

- ・直接・間接の体験活動を通して進路意識と社会性を高め、社会貢献の意識を育む
 - 大学教員や外部講師を活用したキャリア教育の実践
 - 小学校ボランティアへの参加
 - 小学校・中学校との部活動交流
 - インターンシップ・ボランティア活動への参加の奨励
 - 職場訪問を通じたキャリア教育の実践
 - 病院や介護施設等への訪問研修